

一般社団法人大学英語教育学会（JACET）中部支部 2021年度第2回定例研究会プログラム

日時：2022年3月5日（土）15時00分～18時35分

Zoom開催（参加無料・事前予約制）

参加方法：JACET中部支部ホームページ（<http://www.jacet-chubu.org/reikai.html>）より、
事前に参加申し込みをお願いします

開会挨拶 15時00分～15時05分 支部長 今井 隆夫（南山大学）

研究発表

実践報告 15時10分～15時40分 司会 大瀧 綾乃（静岡大学）
A Trial of English Output via Instagram for L2 University Students
Megumi Yoshieda（名古屋外国語大学）

実践報告 15時45分～16時15分 司会 藤原 康弘（名城大学）
トランスランゲージング教育に関する探索的研究
— 言語・非言語資源を最大限に活用したメニュー作成活動を事例として —
間地 悠子（中部大学大学院生）

研究会研究発表 16時20分～17時05分 司会 佐藤 雄大（名古屋外国語大学）
【ライティング研究会】
テーマ型内容中心教授法のライティング使用語彙幅の効果について
柴田 直哉（名古屋外国語大学：非）
道義的正義と政治的得策のレトリック
— アヘン戦争をめぐる英国議会のグラッドストーンとパーマストーンを中心に —
木村 友保（名古屋外国語大学名誉教授）

講演会 17時10分～18時25分 司会 木村 友保（名古屋外国語大学名誉教授）
大学英語の授業に教養教育を
— 改めてメタ言語能力育成の必要性 —
森住 衛（大阪大学・桜美林大学名誉教授）

閉会挨拶 18時30分～18時35分 副支部長 安達 理恵（椋山女学園大学）

発表概要

研究発表

実践報告 15時10分～15時40分

A Trial of English Output via Instagram for L2 University Students

Megumi Yoshieda (名古屋外国語大学)

Though a billion people use Instagram as a handy place to perform communication in English, not much research is conducted to display its effectiveness for L2s to practice authentic output. In this study, Japanese university students uploaded their posters on Instagram in English. They chose a topic from news articles, and created their messages on the topic as a post. The effects were analyzed from the poster content, action logs, and questionnaires. After overcoming the anxiety, students refined the messages, noticed world-wide audiences, and finally publicized the posters on Instagram. A novel finding was that the activity triggered students to invent English hashtags or keywords in the same manner they devise in Japanese Instagram.

実践報告 15時45分～16時15分

トランスランゲージング教育に関する探索的研究

— 言語・非言語資源を最大限に活用したメニュー作成活動を事例として —

間地 悠子 (中部大学大学院生)

近年北米・ヨーロッパを中心にトランスランゲージング (TL) が注目を集めている。本研究では事例研究をとおして、まだ十分に議論されていない TL 教育の具体的な指導のあり方を探索的に調査する。大学生 35 名に対して日本語でのみ書かれたメニューの情報 (料理名、金額など) を提示し、日本語話者だけでなく日本に訪れている外国語話者も来店する仮想レストランのメニューを作成してもらった。メニュー作成に着目した理由は、TL の目的である、言語・非言語資源を最大限に活用した活動を促すことができると考えたからである。結果、作成したメニューは日本語と英語で書かれ、料理の絵などの非言語で情報をさらに補っていた。質問紙では、学生が活動に関心を示し、満足感を得たことが明らかになった。本事例をもとに TL 教育が学習者の言語学習意欲を向上させる可能性を議論する。

【ライティング研究会】

テーマ型内容中心教授法のライティング使用語彙幅の効果について

柴田 直哉（名古屋外国語大学：非）

本発表では大学1, 2年生計80名（実験群40名、統制群40名）を対象に行ったライティング時の使用語彙幅におけるテーマ型内容中心教授法(TBI)の効果の研究結果を報告する。統制群にはパラグラフ・ライティング指導を用い、実験群にはTBIを用いて14週間ライティング指導をした。Text Inspector(2020年)を用いて事前・事後テストの学生たちの使用語彙幅を測定し、ウィルコクソンの符号順位検定とマン・ホイットニーのU検定を用いて学習者たちの使用語彙幅の変化と両群の統計的差異の有無を測定した。結果として実験群には統計的有意な伸長があったが、統制群にはなかった。加えて、両群にも統計的有意差が見られた。また、各群4名に行ったインタビューと全学生が毎講義後に書いた授業の振り返りからテーマの理解度の深まりと学習者間での会話活動が大きな役割を担っていたと考えられる。以上を踏まえて、TBIを用いてのライティング指導の可能性を考察していく。

道義的正義と政治的得策のレトリック

— アヘン戦争をめぐる英国議会のグラッドストーンとパーマストーンを中心に —

木村 友保（名古屋外国語大学名誉教授）

ライティング研究会の研究テーマは二つある。一つは、どんなライティング指導が最も効果的か（柴田）。もう一つは、最終的には学生にどんなライティングを期待するのか（木村）。本発表では、後者のテーマに沿って、研究者自身がどんな内容のものをどのように書くことを目標にしているのか、一つ具体例を示す。

今回の例は、英語ニュースで「香港問題」に遭遇した時、香港が割譲されたアヘン戦争に関して、英国議会では「反対はなかったのか」という疑問が出発点。反対は大いにあった。その中心人物がウィリアム・グラッドストーンである。彼の政敵は、パーマストーン外相である。『イギリス史10講』（近藤和彦、2013年）によれば、1840年4月7日から始まった論戦は4月9日まで続き、その結果、開戦賛成派が271票、反対派が262票でイギリスは「不義にして非道の」アヘン戦争に突入した、という。この「9票差」が、本当は大差で負けるところが、グラッドストンの演説のおかげで、その差が縮小したのかどうか。そのために、この3日間で行われたすべての演説を読み、その後グラッドストーンとパーマストンの演説に焦点を絞り、スピーチ批評の観点から両演説を描写、分析、解釈、評価を試みた。そして英国議会の議論の中で両演説が果たした役割について論じる。

講演概要

講演会 17時10分～18時25分

大学英語の授業に教養教育を ― 改めてメタ言語能力育成の必要性 ―

森住 衛 (大阪大学・桜美林大学名誉教授)

最近の大学のいわゆる一般英語の授業は、「英語を使う」という実用に向けての「練習・習熟・訓練」の授業が主流になっている。特に、「聴く・話す」領域が重んじられるようになり、All in Englishの授業が多くなった。民間試験対策の授業も急激に増えている。このために、もう一つの外国語能力である「メタ言語能力」育成による言語文化に関する「気づき・発見・視野の拡大」を誘発する要素、すなわち教養面が希薄になっている。

メタ言語能力とは、言語の意味や用法に関する知識を元にして言語と思考、言語と人間、言語と社会のあり方などを考察・判断する能力、すなわち言語観である。この能力は、リベラルアーツの源泉ともいべき古代ギリシャの7学芸のうちの3つ「文法(grammarica)・修辞学(rhetorica)・論理学(logica=弁証法 dialectica)」に匹敵する。

大学英語教育は、小中高の英語教育を受けて、いわば日本の英語教育のまとめの役割も担っているが、このメタ言語能力を取り上げて英語教育の画竜点睛の役割を果たしたい。これが浸透すれば、今後どんなに優れた自動翻訳/通訳機やAIが出てきても外国語教育の存在価値は失われなない。また、Englishesという英語教育として視点の転換を迫られる重大局面にも適切に対応できる。

【講師紹介】

森住 衛 (もりずみ まもる)

1942年生まれ。東京高専、大妻女子大、大阪大、桜美林大院、関西外大院などの教職を経て、大阪大・桜美林大名誉教授。学会：東京言語文化教育研究会、大学英語教育学会、日本言語政策学会、日英言語文化学会などの元会長。専門：英語教育学・言語文化学。外国語教育を通してどのような言語観・人間観・社会観・世界観が育つかに関心がある。単著・共編著・監修：『英語教育と日本語』(1980)、『言語文化教育学の可能性を求めて』(2002)、『単語の文化的意味』(2004)、『高等教育における英語授業の研究』(2007)、『大学英語教育学』(2010)、『外国語教育は英語だけでよいのか』(2016)、『日本の英語教育を問い直す8つの異論』(2020)など。検定教科書：New Crown(中学1978-2012)、Exceed, My Wayなど(高校1983-現在)の代表著作者など。

事務局からのお知らせ

☆ 当日、第8回中部支部役員会（14:00～14:55）を行います。



2021 年度第 2 回定例研究会(3 月 5 日)

参加申し込みサイト

<https://bit.ly/3L75J2J>

定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局：名古屋工業大学 吉川りさ研究室内

yoshikawa.lisa@nitech.ac.jp